

大崎農業改良普及センターだより

# Osaki

Vol. 164

2026年2月24日



## Pick Up!

令和7年度農事功績者表彰  
『緑白綬有功章』を受章  
坂井さんご夫妻  
よろこびの声をご紹介します！

## 令和7年度プロジェクト課題活動報告

### 色麻町の地域計画実現に向けた担い手の経営発展

活動期間：令和7年度～令和8年度 関係市町：色麻町  
 対象：農事組合法人下高城ふぁあむ、清水集落営農組合  
 （色麻町内土地利用型農業法人10法人）

色麻町の地域計画では、集落営農法人等の担い手への農地集積率90%を目標としており、普及センターでは、担い手の持続的な経営発展に繋がるよう、乾田直播栽培等の省力化技術の導入支援や、集落営農組織の法人化支援を行っています。今年度は乾田直播栽培の技術指導や、設立された法人の経営向上を目的とした視察研修会を開催しました。令和8年度も担い手法人の経営発展に向け、高収益作物栽培や営農管理方法の導入に向けた支援を行っていきます。



(農)きよみず創立総会の様子

### 加美地域におけるさつまいもの新たな産地形成に向けた生産技術の確立

活動期間：令和6年度～令和7年度 関係市町：色麻町、加美町  
 対象：JA加美よつばさつまいも生産者

全国的にさつまいも需要が高まる中、JA加美よつばでは、新たな産地形成に向け、新規作付けの拡大を推進しています。しかし、温暖地域で生産が多いさつまいもを、寒冷地に位置する加美地域において安定的に生産するためには、栽培技術の体系化が不可欠です。

普及センターでは、加美町で先進的に栽培に取り組む有限会社ライスアーティストの協力のもと、地域に適した栽培技術マニュアルを整備するとともに、新規作付者への栽培技術支援を行い、収量向上を図りました。



さつまいも現地検討会

### 中山間地農業の核となる農産物直売所の組織運営能力向上

活動期間：令和5年度～令和7年度 関係市町：加美町  
 対象：やくらい土産センターさんちゃん会、プラビラボ

加美町の薬菜山にある「やくらい土産センター・山の幸センター」は農事組合法人やくらい土産センターさんちゃん会が運営する農産物直売所で、地域農業の拠点として重要な役割を担っています。普及センターと加美町では、接客力向上や売り場改善、商品力向上に関する研修会を開催するなど様々な支援を行ってきました。

その結果、減少傾向にあった販売額が令和5年度以降増加に転じるなど、明るい兆しが見えてきました。今後の発展が期待されます。



豊富な品揃え

## 若手農業者の経営発展に向けた水稲乾田直播栽培技術の定着

活動期間：令和7年度～令和8年度 関係市町：大崎市

対 象：東部師山営農組合・(株)三本木グリーンサービスの若手農業者2名、水稲乾田直播の導入・取組拡大を志向する担い手経営体

管内で拡大している水稲乾田直播栽培について、特に大豆との輪作体系にササニシキの導入が可能か検討しました。7月の用水不足の影響を受けたほ場では収量が伸び悩みましたが、品質の高いササニシキができました。大豆後作では、無施肥でも生育旺盛となり、期待以上の収量が確保できることが明らかとなりました。



乾田直播展示ほの現地検討会（8月27日）

## 女性のパワー全開！一緒にマルシェ出店しました！

昨年度から、若手女性農業者等の地域での活躍や交流を支援する事業を県北3普及センター合同で実施しています。

今年度は、「みんなでマルシェに出店しよう！」をテーマに、8月と9月に講座を開催しました。参加した女性農業者8人は学んだ経験を活かし、令和7年10月18日（土）タカカツアリーナ大崎で開催された「おおさき産業フェア2025」内の“食と暮らしのマルシェ”への出店を果たしました。

みんなでつけたグループ名「農Lady♡農Life」をキャッチフレーズに、生産した新鮮な野菜や果物、新米、農産加工品のほか、多肉植物や手作りの水引ストラップなどの販売を行いました。マルシェは大盛況で、多くのお客様が訪れ、女性農業者との会話を楽しみながら買い物をする光景が見られました。一つの目標に向かって取り組んだことで、地域を超えた繋がりが生まれ、参加者同士の絆もより深まりました。



マルシェの様子

## さつまいも栽培研修会を開催しました！

令和8年1月21日、県大崎合同庁舎で「宮城県さつまいも栽培研修会」を開催しました。当日は多くの生産者が集まり盛況となりました。農研機構九州沖縄農業研究センターの小林透氏からは、さつまいもの育苗や栽培、収穫後の保管に関するポイントなどを詳しく解説いただいたほか、(農)月崎さくらファームの本田林一氏による事例紹介、加美よつば農協の三浦園芸課長による農協の取組紹介等が行われました。活発な質疑応答も交わされ、県内の生産拡大に向けた有意義な場となりました。



研修会の様子

ひとりでもグループでも環境にやさしい農業に取り組んでみどり認定を受けましょう



